

日本語多読授業における「読んだ読み物の数」の得点化と学習者の意識

長野 真澄 (岡山大学) naganom83@okayama-u.ac.jp

1. 問題と目的

- **多読とは**
 - ・辞書なしで理解できる易しい本を楽しく、速く、大量に読むこと
 - ➔ 大量のインプットを得て言語技能の向上を目指す
- **授業実践上の課題：成績評価をどうするか**
 - ・特に成績評価に「読書量」を含むかどうかについては様々な意見
 - ※日本語多読教材は文字数未公表のものが多く、計測が難しい面も

- **先行研究**
 - 長野 (2023) : 成績の30%。件数に応じて得点化。45件で満点
 - ・読み物数の得点化による「楽しさ」の阻害や「数稼ぎ」の事例も

- **本研究の問い**

「読んだ読み物の数」の得点化は学習者の意識にどう影響するか?

 - ※ 読み物数の得点の比率を下げた (30→20%) 際の反応の違いも検討
 - ➔ 多読授業の成績評価の在り方を検討するための基礎資料に

2. 実践の概要

- **授業の概要**
 - ※大学の日本語コースの選択科目
 - ・対象：中上級日本語学習者
 - ・期間：7週間 × 2学期
 - ・目標：読みの習慣化 ➔ 読みの流暢性向上と心理的障壁の低減
 - ・活動：各自の選書・多読・記録、速読練習、ブックトーク、個別面談
- **使用した読み物とその数え方**
 - ・読み物：約500冊 (段階別読み物、絵本、児童書等)
 - ・数え方：本1冊または記事や読み物1つ = 1件
 - ※ただし長編は1章・1話または30ページで1件

1件=0.5点
目標:40件
成績の20%

成績評価	読み物数 (20%)	授業参加態度 (20%)	各種記録 (20%)	自己評価/教員評価 (20%)	速読 (10%)	レポート (10%)
------	------------	--------------	------------	-----------------	----------	------------

3. 調査の方法

- **対象者とデータ**
 - ・対象者：2学期連続の履修者 9名 (A~I)
 - ・データ：週ごとの振り返り記録
 - ・期末レポート (2学期分)
 - ・個別面談の逐語録
- **分析手法：SCAT** 大谷 (2019)
 - ① 各切片を4段階のコーディング ➔ 「テーマ・構成概念」獲得
 - ② 各対象者のストーリー構築 (時系列も考慮)
 - ③ 理論記述 ➔ 各対象者を比較

読書量と読み方への内省に関する箇所を抜粋 ➔ 切片化 (計108個)

読み物の目標数への意識と到達状況から3タイプに分類

4. 結果と考察

※各タイプの特徴とデータ例 (アルファベットは対象者) を示す。理論記述の例は会誌参照

タイプ1. ペースメーカー型 (B・C・E・F)

目標数が多読遂行の指針 ➔ 葛藤しながらも到達 ➔ 新たな挑戦へ

- ・読み物数への言及が頻出
 - ・各期末には目標数到達
 - ・目標数がペースメーカーとして機能
- F: 残り3週の間目標である40冊を読めるくらいペースを上げたいと思う。1学期目第4週振り返り
- ・目標数到達のための試行錯誤
- B: 大変だったことは自分の時間管理だと思う。もっと時間を管理して、本を毎日1冊でも読みたい。1学期目第4週振り返り
- ・「数」と「楽しさ」のバランスに葛藤
- C: 面白さと読書の量のバランスを取るのはまだ一番難しいです。(中略) 速くたくさん読むことを考えて楽しさが減ってしまいました。1学期目第4週振り返り
- ・目標数到達後の2学期目に原著への挑戦
- B・C・Eは原著と易しい読み物を並行で読み、Fは原著を多数読むことで再度目標数到達
- C: (今学期) 最も多く読んだのはオンラインの多読本と記事だったが、2冊の小説にも挑戦してみた。2学期目期末レポート
- E: 冬休みに時間をかけてハリー・ポッターの本を読み終えたことは、私にとって大きな成果になりました。2学期目期末レポート

タイプ2. パターン確立型 (G・H・I*)

早期の選書の成功 ➔ 読みの習慣化 ➔ 数を意識せず自然に目標数到達

- ・読み物数への言及はほぼない
 - ・各学期末には目標数到達
 - ・早期の選書成功により、選書と授業外での読み行動のパターン化
- G: (青い鳥文庫について) 気がついたのはストーリーも面白いですから、早く楽しく読めることです。毎日、授業が始まる前とか、部活に行く前とか、一時間ぐらい読む習慣を少しずつつけて、宿題だとは感じなくなりました。1学期目期末レポート
- G: (印象に残ってる読み物は) やっぱり最後に読んだ小説ですね。初めて振り仮名が付いてないものを読みました。2学期目個別面談
- H: 私はやはりオンラインの読み物の方が好きだと思います。なぜなら、短いし、どこでも読めるからです。色々な情報をもらって、知識が増えました。2学期目第1週振り返り

※タイプ3から2へ変化した者 (I) も

- I: 面白い『ミラーさん』の小説が見つかりました。(中略) 今、2章まで読みましたが、絶対この本を読みきります。2学期目第2週振り返り
- I: この本は面白いし、今までで一番厚い本だが、飽きません。この本のおかげで縦に書かれた本を読むスピードは早くなりました。2学期目第4週振り返り

タイプ3. 自己充足型 (A・D・I*)

数を意識せず目標数未達 ➔ 多読による自身の変化への満足感

- ・読み物数への言及は少ない
 - ・授業外ではあまり読まず (または記録せず)
 - ※多読より優先順位が高い事柄への言及
 - ・目標数未達だが、他の軸での満足感
- A: (出かけてばかりで) 思ったほど本を読まなかったが、(中略) 縦書きをもっとよく読めるようになったので私にとって大事な授業だった。1学期目期末レポート
- A: 今学期も先学期とほとんど同じ数の本を読んだけど、(中略) ひらがなのかたまりを一文字ずつ読む代わりに意味が分かって読み飛ばすことができるようになった。2学期目期末レポート
- D: (多読で) 今まで知らなかったことを勉強できて、(中略) 読むスピードは確かに少し速くなって、自分も驚きました。1学期目期末レポート
- D: 最近は多読というよりは、自分が興味があるもうちょっと難しいテーマについて読んでいるので。(記録に) 書いてないんですけど、(中略) 読むのは読んでますが、自分の感想とかを書くのは、苦手ですから。2学期目個別面談
- I: (多読は) 大体授業の中だけ。今回N2を受験するので(授業外では) N2の本を読んでいます。1学期目個別面談

※IはJLPT終了後の2学期目にタイプ2に変化

5. まとめ：本研究の知見と今後の課題

「読んだ読み物数」の得点化の影響を受ける学習者【タイプ1】と影響をあまり受けない学習者【タイプ2・3】の存在

【タイプ1】得点への意識がペースメーカーとして機能する反面、心理的負担や葛藤を誘発 (評価比率を下げても変化なし?) ➔ 乗り越えれば自信につながり新たな挑戦へ

☞ 今後は学習者がどのように乗り越えたか、また、このタイプの学習者にはどのような声かけや支援が有効かを検討

【タイプ2】早期の選書成功から読みの習慣化と目標数到達へ

☞ 今後は選書成功の要因や背景を検討し、事例を蓄積

【タイプ3】授業中のみの多読中心で目標数未達でも得点とは別の観点で自身の変化に満足感を得る

☞ 今後も多読による多様かつ個別的な成長を反映し得る多角的な評価指標を検討

➔ タイプ3をふまえると、読み物数の評価比率は20%程度が妥当か